

平成30年7月9日(月)

ラグビー部記念誌について

ラグビー部の記念誌は、70周年記念として現在計画中です。以下は、そのご挨拶の原稿です。

磐城高校ラグビー部70周年記念誌の発刊に寄せる

磐城高等学校長 阿部武彦

本校ラグビー部創部70周年の節目における二度目の記念誌の発刊に寄せまして、一言ご挨拶を申し上げます。

昭和23年の創部以来、幾多の磐城ラグーマンの血と汗と涙が、青と白のユニフォームの重みと誇りを築いて参りました。各世代におけるラグビー部出身者が、いわきの歴史を支えていただきました。さらには、諸先輩方が、高槻楯円会として生徒を集め、育ててきた歴史と重なっております。

磐城ラグビー部の歴史は、また、中学生からのラグビー人材発掘を待つ時代を併せ持つ歴史でもあります。隆盛を極めて勝ち続ける時代の前には、一人一人を大切にしながら、何とか15人をそろえ戦った時代、15人を待つ時代を併せ持つのであります。

その時代の甲斐あって、県大会は何度か優勝を果たしながら行くことがかなわなかった花園への道が開かれます。昭和55年度から、本校ラグビー部は6連覇を果たしました。その後、平成11年度まで、14年間に8回の優勝(平成三年度からの4連覇を含む)を果たします。そして、9年の雌伏の後、平成21年度からの3連覇と繋がります。

磐城の魂を胸に秘め、決して一人では成し遂げられないことも、心を合わせて前への精神で力を結集し、謙虚でありながら主張するところでは主張して、泥臭くも楯円の球筋をつなぐことは、これまでも一人一人の部員の中に育成されてきたところです。

磐城高校の大きな使命のもう一つは、ラグビー界における指導者育成であります。もはや福島県の指導者の多くは、磐城高校出身者であります。

長年のライバル校である平工業高校や郡山北工業高校の指導者もまた、磐城高校出身者であります。お互いが切磋琢磨することで、福島県全体のレベルをアップさせてきたことは間違いのない事実であります。

さて、2019年は、日本でのワールドカップ開催、2020年は、花園100回大会です。

磐城ラグビー部の諸君が、100回目の花園に出場するメンバーになってほしいと心から願ってやみません。さらには、磐城高校の諸先輩方の後を追って、次の時代の指導者に育ってほしいと心から願います。

これまでの当時の生徒たちの活躍と、指導者たちの情熱が形作った偉大な歴史に敬意を表すると共に、様々なところから支えていただいている先輩諸氏を始めとする関係の皆様方のご尽力に心からの感謝の意を表するところでもあります。

終わりに、今後、100年200年と磐城高校ラグビー部の活躍が続くことを祈念すると共に、今回の発刊に当たり、ご協力いただいた方々や、尽力された関係各位に感謝申し上げます。ご挨拶といたします。